

第4分野 香り高い地域文化と心豊かな人を育むまち

基本方針3

スポーツに参画できる環境づくりを進めます

事業年度	令和6年度
責任部長	教育次長
責任課長	スポーツ振興課長
責任課	スポーツ振興課
主管課・関係課	スポーツ振興課、社会福祉課、社会教育課、観光課

■施策の概要

- 施策1: ライフステージに応じたスポーツ活動の推進** 【主管課: 教育委員会事務局 スポーツ振興課】
 スポーツを通じて体力や社会性を養い、スポーツ好きな子どもを育成するため、幼少期からのスポーツ活動を推進するとともに、市民一人ひとりが、生涯にわたり心身ともに健康な生活が送れるよう、誰もが気軽に取り組めるスポーツ機会の提供が必要です。そのため、年代、運動能力や体力の違いに応じたスポーツ活動を推進します。
- 施策2: スポーツ活動の支援** 【主管課: 教育委員会事務局 スポーツ振興課】
 競技力向上や少年スポーツ活動の充実を図るため、ハード面やソフト面など様々な側面から継続的な支援を行う必要があります。このため、スポーツを支える指導者の育成や、大会等を支えるボランティアの発掘、スポーツに親しむための環境整備を行うなど、スポーツ活動の支援を行います。
- 施策3: スポーツツーリズムの推進** 【主管課: 教育委員会事務局 スポーツ振興課】
 スポーツに関心を持ち、スポーツを「する・観る・支える」市民を増やすための取り組みとして、一流アスリートのプレーに触れ、スポーツの価値や魅力を感じる機会や、子どもたちが夢や憧れを持ち、競技スポーツに取り組むきっかけづくりが必要です。また、スポーツ施設の予約管理をはじめ、宿泊施設の案内や、観光要素も含めた複合的な目的での利用など、多様化するニーズに対応するため、スポーツ合宿や大会等の受入態勢を強化するとともに、スポーツによる交流人口を増やし、全国・世界規模の大会やイベント、合宿等を誘致するなど、地域経済の活性化も視野にスポーツツーリズムを推進します。

■関連指標の動向

指標名	単位	管理種別	望ましい方向	関連施策	現状値	各年度の目標値(上段)					評価年度の達成率
					(R1)	各年度の実績値(下段)					
						R3	R4	R5	R6	R7	
▶ 週1回以上スポーツ活動をする市民の割合(まちづくりアンケート)	%	フロー	↗	施策1	34.9 (R2)	-	-	40.0	-	50.0	-
▶ 小中学生の少年スポーツ団体への加入率(時点)	%	フロー	↗	施策2	65.6	63.0	65.0	67.0	68.0	68.5	79.3%
▶ スポーツを「する・観る・支える」市民の割合(まちづくりアンケート)	%	フロー	↗	施策3	17.7 (R2)	-	-	20.0	-	30.0	-
▶ スポーツ大会・合宿への参加者数(年間)	人	フロー	↗	施策3	3,268	11,000	16,000	21,000	30,000	31,000	103.4%
						12,339	18,465	23,914	31,021		

■決算データ及び構成事務事業の実施状況

施策名	R5決算額(千円)	R6決算額(千円)	構成事務事業の実施状況(R6)					
			a	b	c	d	-	小計
1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	6,028	5,568	0	2	0	0	0	2
2 スポーツ活動の支援	36,521	81,489	0	3	0	0	0	3
3 スポーツツーリズムの推進	16,345	81,557	0	2	0	0	0	2
小計	58,894	168,614	0	7	0	0	0	7

- a: 順調に実施されており、成果が表れている事務事業
- b: 概ね順調に実施されており、一定の成果が表れている事務事業
- c: 概ね順調に実施されているものの、目指す成果が表れていない事務事業
- d: 実施状況及び目指す成果ともに停滞している事務事業

■基本方針に係る総括評価(所見)

【責任部長:教育次長】

令和6年度は、スポーツ大会や合宿、スポーツイベント、スポーツ教室などスポーツ活動が活発に展開され「1市民1スポーツ」の推進及び障がい者スポーツの普及について進めることが出来た。スポーツ大会・合宿誘致においては、目標の3万人を超える利用となり、大きな成果を上げることができた。少年スポーツに関しては、休日の学校部活動から地域クラブ活動への移行について、クラブの統合(20種目50団体)が進み、地域クラブ活動の在り方等に関するガイドラインも作成され、R7年9月の完全移行に向けて着実に進められている。

■施策ごとの評価

施策1:ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

【主管課:教育委員会事務局 スポーツ振興課】

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」

スポーツ活動に取り組む市民の割合は、やや増加傾向にありますが、30代から50代のスポーツ実施率が低くなっていることから、要因を把握した上で、すべての世代がスポーツに取り組みやすい環境を整える必要があります。

◎後期基本計画策定時の「目指す姿」

スポーツに親しむきっかけづくりや、各世代のニーズ、ライフスタイルに合ったスポーツ活動の展開により、市民が健康でいきいきとした生活を送っています。

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

- 郡上市スポーツ推進委員による活動(軽スポーツ普及、体験教室、研修会等)
- 市域 活動:さくら道ネイチャーラン 郡上市駅伝大会
- 地域 八幡11回:モルック(特別支援学校にて体験教室)、大和9回:駅伝、カローリング、ソフトバレー 白鳥12回:ソフトバレー、ウォーキング 高鷲8回:モルック、グラウンドゴルフ 美並12回:モルック、スポレク祭 明宝6回モルック、カローリング 和良6回:モルック、マラソン
- 市民健康増進体力づくり教室(市内8地区:55回開催)
- スポーツアドバイザー派遣(アスリートによる教室、指導、講演会等)(相撲1回、剣道3回、クロカン2回、ラグビー1回、カヌー3回、スポーツドクター5回)
- FC岐阜応援プロジェクト
FC岐阜ホームタウンデー開催(チケット実績86名)、FC岐阜選手の市訪問交流(2園実施)
- 市内スキー場の協力によるリフト優待券制度(市内在住小中学生リフト券無料【高校生、保護者1,000円】)
スキー優待券制度 9,386人利用

【課題】

- 市域で同一スポーツを推進するための取組の推進
- 障がい者が健常者と共に楽しめる軽スポーツの推進
- 30才代から50才代がスポーツ活動を行うための仕組みづくり
- 障がい者スポーツの普及(健常者とも一緒に楽しめるスポーツの普及)

II. 今後の方向性と具体的な展開

- 他市事例を参考にして、各地域が連携して取り組めるスポーツを選定し、研修会により楽しみ方や魅力などの発信方法を研究し普及を行う。
- 各行事において特別支援学校等と連携した取組を行う。
- 広い競技場を必要とせず身近で楽しめる「アーバンスポーツ」や親子で楽しめる軽スポーツを推進することで30才代から50才代のスポーツ参加を推進する。

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」
 スポーツ少年団やクラブ等の競技団体では、団員数の減少に伴う活動の縮小や休止、競技に精通した指導者の減少が顕在化しており、競技団体の活性化や指導者の発掘・確保・育成に向けた支援が必要です。

◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
 競技種目や団体を選択できる環境と、充実した指導体制のもと、競技力が高く活発なスポーツ活動が展開されています。

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

- 地域クラブ移行に向けた活動
- ・地域クラブへの移行(20種目50団体)
- ・指導者資格取得98名
- ・地域クラブ活動の在り方等に関するガイドライン作成
- 全国大会に出場した選手への激励会開催(激励金交付)
 15種目/75名が全国大会出場
- スポーツ強化種目育成事業による支援(外部指導者謝金、遠征、合宿費等)
- ・強化種目の選定(相撲、剣道、スキー、ビームライフル)
- ・全国大会出場選手 相撲15名 剣道19名、スキー12名、ビームライフル5名
- 郡上市スポーツ協会活動支援
- ・新団員獲得のための教室開催支援 9競技10事業
- ・市内交流大会支援 6競技12大会 ・大会/講演会開催 2大会1講演会
- ・市外交流大会支援 1競技1大会 ・激励会の開催(市と同時開催)、激励金交付

【課題】

- 団員数の減少による団体の消滅
 - 指導者不足による団体の消滅
- 上述の課題を解消するため、土日部活動の地域クラブへの展開をR7.9月までと設定、また、R8からは平日部活動の地域クラブへの展開を予定している。その間の指導者、学校教員、保護者への継続的な説明とクラブ統合に向けた理解と各クラブが抱える課題の解消が必要である。

II. 今後の方向性と具体的な展開

少子化への迅速な対応として、自由に選択できる、安心・安全で、持続可能な地域クラブ活動を目指す。

- 地域ごとに小・中合同で活動(平日)
- 合同練習や交流試合の活性化(休日)
- 地域クラブ活動推進協議会が主体となった体制づくり
- ガイドラインの遵守
- 指導者資格の取得推進
- 地域クラブが主体の中体連の新たな組織編成
- 平日部活動の地域クラブへの展開
- 地域クラブ活動の推進についてスポーツ協会等との連携強化

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」	◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
<p>まちづくりアンケートによると、スポーツをすることや観ること、支えるといったスポーツ活動に参画する市民の割合が17.7%と低いため、スポーツの価値や魅力を感じることができる機会を提供し、スポーツへの関心を高める必要があります。</p>	<p>スポーツをすることや観る機会、スポーツ活動を支える環境が整い、スポーツ活動に参画する市民が増加しています。</p>
<p>施設の整備や、スポーツ合宿・大会等の誘致活動により、様々なスポーツや複合的な目的での利用が増加しているため、多様なニーズに対応できるよう受入態勢の強化が必要です。</p>	<p>多様なニーズに対応できる受入態勢が整い、多くのスポーツ合宿や大会が行われ、スポーツによる地域の活性化が図られています。</p>

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

- 郡上市スポーツコミッションによるイベント、教室の開催
- 郡上市元気スポーツフェスタ(来場者:959名 トップアスリート事業(郡上市駅伝大会:269名、縄跳び教室:36名)
- 合宿・大会誘致 利用者
 - ・呷高原スポーツ広場 15,725人、まん真ん中広場 13,131人、やまと総合センター 1,502人、郡上市総合スポーツセンター 200人
 - ・その他 463人
- 計31,021人 ※内宿泊者数8,297人
- 地元企業連携
 - ・キッチンカー出店数(37出店)
 - ・弁当注文数33件2,330食
- スポーツ合宿補助金(2,615,100円)
 - ・28件 5,248人が利用

【課題】

- スポーツを「する」だけでなく、多世代が「支える」活動に参画できるような仕組みづくり
- 呷高原スポーツ広場、まん真ん中広場においては、合宿利用が集中する期間(土日祝日、GW、夏休み)に予約が集中し、キャンセル待ちの状態である。
- 宿泊予約は増加傾向にあるが予約を受けられない時期もあるため今後の受け入れ方法について検討が必要である。
- 弁当注文は、値段や、アレルギー等の要望に応えられているが、キッチンカーについては、連携企業がまだまだ少ない為、出店できない場合もある。
- 組織の自立化や他団体との連携強化に向けた方向性について検討することが必要である。

II. 今後の方向性と具体的な展開

- 大会、合宿の誘致により、年々利用者が増加しており、土日祝日は予約がとれないため、今後は平日の利用促進を図る。
- 呷高原スポーツ広場、まん真ん中広場以外の市内体育施設(郡上市総合スポーツセンター、やまと総合センター、合併記念公園、主要スポーツ広場の周辺体育館等)の利用促進を図る。
- 体育施設だけでなく地元企業等との連携強化・拡大(登録宿泊業者、キッチンカー組合、弁当業者、観光業者等)を図り、利用者の多様なニーズに対応できるように受入体制を強化し、経済効果の高い取組を実現する。
- 他市のスポーツコミッションの事例を参考にしながら、自主事業の強化や組織の在り方について検討を進める。

■後期基本計画策定後新たに生じた課題等	

■関連する個別計画の有無	
有	第2次郡上市教育大綱、郡上市教育振興基本計画(第3期)